

議会報告会報告書

開催日時	令和5年8月27日（日）午後7時30分 終了：午後8時30分	
開催場所	鶴来総合文化会館クレイン2階 第2・3研修室	
対象団体	白山市青年団協議会	
参加人数	6人	
班構成	A班	山本佳裕、原 卓二、大屋潤一、石地宜一、岡本克行、西川寿夫 (欠席：池元 勝)
役割分担	挨拶：大屋潤一、司会：山本佳裕	

意見交換会テーマ：「ジオパーク認定で白山市はどう変わる・どう活かす？」

○A班：西川、石地、山本

(意見1)

ジオパークの世界認定で、国から何らかの補助金が出るなどのメリットはあるのか。

(答 弁)

将来はどうか分からないが、現状は補助金が出るということはない。これまで当り前のように自分たちの周りにあるものが、世界でどれだけ価値があるかということが証明されたということではないか。

(意見2)

手取峡谷の川下りの復活や、化石発掘などの体験型ツアー（コト消費）があったらよいのでは。また、博物館などの拠点施設も必要では。

(答 弁)

観光というのは、シンボルや拠点を軸にすることが多いので、拠点施設が必要かもしれない。

(意見3)

宿泊施設が少ない。特に、大きなお金を落としていくことが見込まれる富裕層が宿泊するような場所が皆無に等しい。

(意見4)

白山市は人口が増えている背景がある。転入者・移住者に向けて、白山市を体験するなどのジオパークを絡めたイベントを実施しては。

○B班：岡本、大屋、原

(意見1)

本市のジオパークと言えば白山ろく・鶴来地域というイメージで、松任地域には関わりが薄いように感じるが、松任地域の人たちは世界認定についてどう思っているのか。

(答 弁)

世界ジオパーク認定までの過程も含め、白山市の一体感を醸成するために非常に効果的だった。

(意見2)

世界認定後のビジョンはどのようなものなのか。世界認定がゴールになっているのではないか。世界認定を一過性のものにせずリピーターを増やすことが大事では。

(答 弁)

分かりやすい観光資源は鶴来・白山ろく地域に多いが、大人数が宿泊できる宿泊施設がなく、食事場所も少ない。そういったことを見据えることも大事だが、市民がジオポイントを訪れて学習したり体験するだけでも、単独かつ市域全体が世界ジオパークに認定されている本市の貴重な財産として活かしていけると思う。

備 考	
-----	--